

平成 28 年 1 月  
 発行：依田窪老人保健施設  
 広報編集委員会  
 〒386-0603  
 小県郡長和町古町 3365-5  
 TEL：0268-68-0281  
 FAX：0268-68-0283

## 新年のごあいさつ



施設長  
石橋 久夫

新年明けましておめでとうございます。  
 平成 28 年の新年を迎えるにあたって、  
 老健いこいのご利用者や地域の皆様方  
 にご多幸を心より祈念いたします。



おたや祭山車 桜町第5場

「日本一の兵」真田幸村公 大坂の陣奮戦の場

「干支(えと)」は「十干(じっかん)」  
 と「十二支(じゅうにし)」の掛け合わせ  
 からできていて、今年「十干」が丙、  
 十二支が申ということ、丙申(ひのえ  
 さる、へいしん)です。60年に一度巡っ  
 てきて、前は昭和31年でした。この丙  
 申の年というのは、これまでの頑張り  
 形になっていく年であり、昭和31年  
 というのも、戦後復興が徐々に形になり、  
 その後の経済大国に向かう礎になった年  
 とも言われています。

今年、老健いこいにおきましても、  
 過去十数年間、試行錯誤で積み重ねてき  
 た努力が、少しずつ具体化し、目標であ  
 る全人的ケア、全人的リハビリに大きく  
 近づく年と期待しています。

### 「正しきものは強くあれ！」

今年からの老健いこいのキャッチフレ  
 ーズは、「正しきものは強くあれ！」です。  
 チームいこいは、確実に前進を続け、地  
 域の高齢化社会をしっかりと支えています。  
 しかし、心身の弱ったお年寄りの尊  
 厳を支え、生きる力をもう一度甦らせ、  
 満ち足りて人生を完結していただくとい  
 う、我々の理想を実現するには、まだま

だ、強い意志と実践力が欠如しています。  
 全員が強い心をもって、事にあたる必要  
 があります。

この言葉は、土光敏夫とその母登美に  
 由来します。土光敏夫は戦後不況の中で、  
 石川島播磨重工の社長に就任し経営再建  
 を成し遂げ、その後は、経営難に陥った  
 東芝の社長、会長を歴任し復活させた人  
 物でもあります。そして日本経済団体連  
 合会の会長となり、鈴木・中曽根両総理  
 時代には、請われて第二次臨時行政調査  
 会の会長に就任し、行財政改革を推し進  
 めたことでも知られています。一方で、  
 土光氏は「メザシの土光」とも呼ばれ、  
 テレビでも放映されましたが、夕食はメ  
 ザシに菜っ葉・味噌汁と玄米という極め  
 て質素な食生活をされてきました。多額  
 の報酬のうち、生活費に回すのは月10万  
 円だけで、それ以外の報酬は全て、母登  
 美が創立した橘女学園に寄付しています。  
 そんな土光氏は、「個人は質素に、社会は  
 豊かに」という言葉を残しています。ま  
 た、この母にして、この子であり、土光  
 敏夫は、その意志の強靭さにおいて、母  
 親にそっくりと言われています。母登美  
 は70歳の高齢でありながら、これからの



新年会(1月13日)

新年会は恒例の餅つきを行いました。  
 石橋施設長やご利用者が力を  
 合わせてつきあげた餅を、みんなで  
 一口大に丸め、お昼にお雑煮にして  
 いただきました。

餅はお正月に食べることで、神の  
 霊力を体内に迎え、生命力の再生と  
 補強を願うと言われています。今年  
 も良い年となるよう皆様と祈願し  
 ながら、楽しい新年会ができました。

日本を支えていくためには、女性がしっ  
 かりしなくてはならないと決意し、女子  
 教育のために、私財を投げ打ち、加えて  
 寄付金集めに日々奔走し、橘女学校を創  
 立しました。その校訓が「正しきものは  
 強くあれ！」で、学苑内の石碑にも刻ま  
 れています。

我々チームいこいは、地域の高齢化社  
 会をしつかりと支えるために、まさに正  
 しき道を歩もうとしています。土光親子  
 の強い生き方を見習いながら、理想の実  
 現に向かって努力を重ねたいと思います。

### いこい設立 20 周年記念講演会

1. 日時 2月28日 日曜日  
 受付／午前9時～  
 開会／午前9時30分～
2. 演題 「日本の伝統精神の美  
 ～老健いこいのめざす世界～」
3. 講師 依田窪老人保健施設  
 施設長 石橋久夫
4. 場所 いこい通所リハビリスペース

※大勢の皆様のご来訪をお待ちしております。



心に寄り添うケア

介護福祉士 大谷明子



私が介護の仕事に就いたきっかけは、家族の介護問題でした。  
 まだ学生だった私は、日に日に弱っていく祖父母をどうにか手助けしたいと感じていました。そして、いつか訪れる両親の介護についても考える日が続いていました。  
 その中で、介護という職業に興味を持ち、資格を取得し当施設で働き始め、今年で8年になります。  
 現在は20名程のご利用者と毎日過ごさせていただいていますが、ご利用者も私の顔や名前を覚えてくださり「昨日は休みだったの?」「風邪ひいていないかい?」と気遣いの言葉をいただく毎日です。何か落ち込むことがあると「大丈夫?」と気付いてくださる方もいて、職員でありながら助けていただくこともたくさんあります。  
 また、定期的に面会に来てくださるご家族とも、会う回数を重ねる毎に会話が増え、ご利用者の情報交換や世間話などを通して、良い関係作りができるようになりました。  
 老健施設の役割のひとつに在宅復帰があります。それを達成するためには、ご利用者やご家族との関係作りはとても重要なことだと感じています。双方が歩み寄り、何かあれば気兼ねせずに話し合えるような関係作りができるように、日々ご利用者やご家族の心に寄り添いながらケアを提供して行きたいと思えます。

依田窪南部中学校1年生交流会(11月6日)  
 初めに全員で合唱を披露された後、グループに分かれてご利用者とゲームや塗り絵、折り紙をしたり、ギター・ピアノ演奏等、心温まるふれあいができました。



**手話ダンス**  
**ボランティア** (12月21日)  
 芸達者な皆さんが、歌、日本舞踊、手話ダンスに手品で盛り上げてくださいました。  
 ご利用者の皆様も手を動かしたり、口ずさんだりと喜んでいらっしやいました。



**長門小学校**  
**2年生交流会**(12月1日)  
 今年2回目となる交流会では、運動会で行ったダンスと歌で盛り上げていただいた後、ご利用者と一緒に玉入れゲームや手遊びで、楽しい時間を過ごしました。



**運動会**(10月25日)  
 入所者48名の方に参加していただき開催しました。  
 応援合戦、ベンチサッカー、大玉送り、職員を仮装するゲームで盛り上がり、スポーツの秋を満喫しました。

ふ  
れ  
あ  
い

(平成27年10月〜12月までの出来事)

ご寄付お礼

次の方よりご寄付をいただきました。略儀ながら紙上を持ちまして、厚くお礼申し上げます。

- 長和町古町 伊藤博一様
- 長和町和田 柳澤 陽様

★ 編集後記 ★  
 新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈り申し上げます。今年も暖冬で、雪が降らない日が続いております。いこいでは昨年「全人的リハビリ」をテーマに全職員で取り組んでいます。2年目はさらに多職種で連携を図り、「いこい方式」と呼ばれるようなケアの確立を図るべく、取り組んでまいります。  
 本年もよろしくお祈り申し上げます。  
 (編集委員)



**忘年会**  
 □入所(12月10日)  
 ボランティアのシルバーフレンドの演奏や、新入職員等によるハンドベルの演奏で盛り上がりました。  
 ■通所(12月2,3日)  
 恒例の職員による余興と、ハーモニカや大正琴のボランティアの演奏と楽しいお話で盛り上げていただき、笑いの絶えない忘年会となりました。



**中国舞踊ボランティア**  
 (10月10日)  
 石橋施設長の実妹ご夫妻が、長野県を旅行中の合間を縫って来所されました。  
 ご主人の司会・解説により、奥様が中国各地の民族舞踊をご披露くださいました。めったに観賞できない艶やかな踊りにうっとり。拍手が鳴り止みませんでした。